＜参考資料＞

1. 粟国村観光振興計画策定の経緯
2. 粟国村観光振興計画策定委員会委員及びラウンドテーブルの名簿
3. 粟国村観光を取り巻く現状・課題等（計画課題の整理）

1. 粟国村観光振興計画策定の経緯

年　月　日	内　容　等
平成 23 年 8 月～10 月	来島者アンケート調査の実施
（平成 23 年 10 月 22 日～23 日）	（事前モニターツアー（詩吟サークル）の実施）
平成 23 年 10 月 31 日～11 月 1 日	モニターツアー（琉球新報カルチャー（写真技術））の実施
平成 23 年 10 月、11 月、12 月	粟国村観光振興にむけたラウンドテーブルの開催（計 3 回）
平成 23 年 11 月 2 日、16 日	村役場、民宿等ヒアリング調査の実施
平成 23 年 12 月 22 日	県内ツーリスト　ヒアリング調査の実施
平成 24 年 2 月 10 日	粟国村観光協会ヒアリング調査の実施
平成 24 年 2 月 20 日	第 1 回　粟国村観光振興計画策定委員会の開催
平成 24 年 3 月 8 日	第 2 回　粟国村観光振興計画策定委員会の開催

モニターツアー（琉球新報カルチャー（写真技術））　　事前モニターツアー（詩吟サークル）

粟国村観光振興にむけたラウンドテーブル

粟国村観光振興計画策定委員会

2. 粟国村観光振興計画策定委員会委員及びラウンドテーブルの名簿

（１）粟国村観光振興計画策定委員会委員の名簿

	氏　　名	所属・役職	備考
1	大城　保	沖縄国際大学大学院 地域産業研究科長	委員長
2	伊佐　文宏	粟国村副村長	
3	高良　修一	粟国村経済課長	
4	山城　義之	粟国村総務課長	
5	末吉　政春	粟国村民生課長	
6	又吉　盛泰	粟国村船舶課長	
7	伊良皆　博司	粟国村教育委員会教育総務課長	
8	渡口　義正	粟国村観光協会事務局長	
9	四方　正良	粟国村観光協会スタッフ	
10	与那　則子	粟国村観光協会理事	
11	上地　松恵	粟国村老人クラブ連合会	

（２）粟国村観光振興にむけたラウンドテーブルの名簿

	氏　　名	所属・役職等
1	小橋川　康吉	粟国村観光協会副会長/字浜区長
2	仲間　幸一	字東区長
3	与那城　義幸	字西区長
4	与那　則子	粟国村観光協会理事/粟国農漁村生活研究会加工部
5	渡口　義正	粟国村観光協会事務局長
6	四方　正良	粟国村観光協会スタッフ
7	玉寄　スミ子	粟国村老人クラブ連合会会長
8	呉屋　喜美江	粟国村女性連合会会長
9	呉屋　正則	粟国小中学校校長
10	伊佐　寿幸	粟国村漁業組合

3. 粟国村観光を取り巻く現状・課題等（計画課題の整理）

＜観光を取り巻く観光環境の変化＞
○通過型・団体旅行から個人・交流型の旅行形態へ
・名所見物型（見る）から参加体験型観光へ
○気軽な旅行スタイルへ
・インターネットや携帯電話等の普及により気軽に情報を入手（個人志向の多様化）
○ローコストキャリア（格安航空会社）の参入（国内外）
※情報化社会・国際化への対応
○少子高齢社会の到来・団塊世代の定年退職
○休日・余暇時間の増大
※生涯学習・余暇活動型社会への対応
○観光の対象としてエコツーリズム、グリーンツーリズム等への関心の高まり
※環境共生型社会への対応

＜国の動き＞
・観光立国推進法の制定（平成 18 年）
・観光立国推進基本計画の策定（平成 19 年）

＜観光立県の沖縄県での位置づけ＞
・観光産業はリーディング産業（重要施策）
・体験・滞在型観光の推進、離島観光の推進
・滞在型観光の推進、エコツーリズムの拡充等

＜粟国村・総合計画での位置づけ＞
○将来像
「自然・ひと・暮らし　ふくらしゃる
粟国　てるくふぁ島」

○観光振興の方向
・体験・ふれあい型の観光・レクリエーションの開発・育成
・第1・2次の既存産業との連携による新企業の支援
・ふれあい交流の担い手となる人材育成

＜主な関連事業・計画＞
○パークゴルフ場整備
○粟国空港の拡張整備や航空機の大型化　等

＜沖縄観光の動向＞
・沖縄県への入域観光客572 万人（平成 22 年度）でほぼ増加傾向である
・沖縄県の入域観光客は東京、関西、名古屋方面の都市圏からの観光客が増加傾向である
・リピーターが増加傾向である
（H9 年にビギナー（初回来訪者）とリピーター（再来訪問者））の比率が逆転）
（那覇空港・那覇港の拡張整備、中国人観光客の受入）
・・・等

＜村外からの視点（外的評価）＞

＜県内ツーリスト ヒアリング調査結果より＞
□観光動向
・観光客は団塊世代の定年退職の方が多い。最近は若い女性も多い。
・琉球歴史ツアーは好評である
□沖縄観光の魅力や旅先で大切なこと
・沖縄の人のホスピタリティやもてなし等の「人」に対する評価が高い
・旅先での「食事」も重要
□粟国島の評価
・大北小学校の先生や子ども達から「楽しかった」と好評であった（沖縄本島では体験できないことが体験できた）
・島の方（生活研究会）による指導等の体験は楽しかった。体験を通して交流することが大切。人の温かい「もてなし」による体験交流がリピーターにつながる。
□粟国観光へのアドバイス等
・島には沖縄本島にない素材がいっぱいあり、それが魅力である。その魅力をＰＲしていけば良いと思う。
・リゾート的な観光は望まない。今のままで島の良さを多くの方に知ってもらうことが重要。
・観光パンフ等で副題（キャッチコピー）は効果的である（例：温もりの海郷・渡名喜）

＜モニターツアーの実施結果より＞
○モニターツアー全体として「満足」の評価のであった
・観光地化していないところ、のんびり観光できることが良い
・フクギと石垣等の集落景観が良い
・井戸のある風景等が懐かしく、郷愁を呼んでいる（そのような資源が多い）
・沖縄の昔の助け合いの精神が生きていて良い
・島の良さをＰＲすべき
・電動アシスト自転車は楽しかった

＜来島者アンケート調査結果より＞
○観光化してなく、何もない。のんびり・ゆったり島時間を過ごす（リフレッシュ）ことが粟国の魅力である
○島へのアクセスの向上や島内の移動手段を確保すべき（島内外の交通に関する不満）

□次回来島した際にしてみたいことは、「ダイビングや釣り」（30.4%）、「キャンプやバーベキュー」（26.5%）、「何もせずにのんびり過ごす」（22.5%）、「祭りやイベント等への参加」（18.6%）となっている。また、2 回目、3 回目の来島者で「島の自然及び歴史学習への参加」や「特産品の製造体験・見学」等の体験メニューへの関心が高くなる傾向がみられる

観光振興等向けた問題点・方向等（キーワード）

＜問題点等＞
・近くて遠い島、悪天候による欠航が多いといったリスクがある
・粟国といえば、ソテツ、塩、トゥージ、むんじゅる節がある程度知られているが、まだ知名度は低い
・観光に関して色々と取り組んでいるが、目標や方向等が明確でない
・人口減少に歯止めをかけるためにも雇用機会の創出が必要
・Ｕ・Ｉターンを受入れる「住」や「職」がほとんどない
・村内には古民家が多く残っているが、島から離れ、空家・廃屋となることも多い
・粟国で観光が進めば、島外からの企業による土地買収等により、島の良さが失われることが懸念される　・・・等

＜方向等＞
○粟国観光は芽生えたばかりであり、これからである
○無理をしない、身の丈にあった観光振興に取り組むべき
○村民全般的に観光に関する意識は十分ではない。徐々に広めてネットワークしていくべき。

＜村民アンケ調査結果からみる観光振興の方向＞
・「自然景観と環境保全を優先し、自然環境を活かした観光を進める」（65.6%）
・「地域住民の意識を徐々に高めながら、無理をしない観光振興を進める」（50.4%）
・「伝統行事や御嶽・拝所等を守りつつ、島の歴史文化を活用した観光を進める」（44.8%）
・「集落景観の保全を優先し、集落散策等が楽しめる観光を進める」（31.2%）

計画課題の整理

①粟国の魅力的な自然環境と島固有の伝統文化の保全・継承・活用

②粟国らしい、こだわりのある「海の幸」「大地の幸」の推進

③人と人とのふれあい交流による感動の創出

④島内外ネットワークの強化

⑤持続的・発展的なしくみの構築

＜粟国村の現状等＞
○粟国村は少子超高齢化（3 人に 1 人は高齢者）であり、近年の人口推移は減少傾向である（Ｔｐ8・9）
・人口：779 人（平成 24 年 1 月住民基本台帳）
・30～40 代の女性、15 歳以下の子どもたちの減少傾向
○基幹産業：農畜水産業
○雇用の創出は厳しい状況であり、若者の流出等による人口減少等が懸念される
○リゾート開発等が行われず、豊かな自然や村民生活に息づく伝統文化等数多くの地域資源が残っている
○交流人口による人口増や新たな雇用の確保に結び付ける観光の取り組みが必要である

＜粟国観光等の状況＞
○観光入込客数は約 3,400 人（平成 22 年度）で減少傾向
○夏休み期間となる 7～8 月で最も多く、次いでＧＷ等連休等の 5～6 月、台風シーズン終り頃 9～10 月。
○ビギナー（初来島）がほとんどで、リピーターは少ない（Ｔｐ15）※リピーターはダイビングや釣りが主と思われる
○沖縄の玄関口である那覇市と空と海で結ばれている
（粟国フェリー1 日 1 往復（片道約 2 時間／9 名乗小型飛行機 1 日 2～3 往復（片道 20 分））
○来島者（平成 23 年 8～10 月来島者アンケ調査より）は「県外」が 5 割強、「県内」が 5 割弱で、県外は東京・大阪等の都市圏、県内は那覇市が多い

＜村内からの視点（内的評価）＞

＜近年における村の取り組み（観光・交流関連）と観光協会の取り組み等＞
・「海の学校」モニターツアーの実施等（平成 19 年度）
・自然観察や料理・特産品製造体験、芸能体験等のメニュー開発をはじめ、地形・地層や集落散策等のガイドツアー等を実施し、島の魅力を活かした体験メニューや観光コース等を提案した（平成 21～22 年度）
・平成 22 年 4 月に粟国村観光協会が設立し、同年 4 月に観光拠点施設「島あしび館」が完成
・名護市大北小学校との体験交流（平成 23 年度沖縄県離島体験交流促進事業）
○その他、村民の観光に対する意識の向上等を図るため、「星空観察会」、「野鳥観察会」、「集落散策」、「ヤヒジャ海岸散策」、「ゆし豆腐づくり」「ビーチクラフト体験」を開催し、徐々に観光に対する意識やネットワークが芽生えつつあり、今後も継続していく必要がある
○施設や備品等は整ってきたが、粟国観光に関わるスタッフの確保や若者の育成が課題である

＜ラウンドテーブルの開催結果より＞
○粟国の魅力的な自然や歴史文化を守り、活かすべき（土地開発の規制、集落景観の保全・育成、風景づくり、村民も学ぶ機会づくり、体験メニューの充実　等）
○粟国らしさにこだわる「食」の提供を
（地産地消の推進、島豆腐・薬草等を使った「食」の研究・開発、粟国ブランドの研究開発・普及　等）
○魅力ある景観づくり
○粟国らしさを発信する伝統行事や交流イベントで観光むらづくり（マースヤー、ヤガン折目、ハーリー等を文化的な観光資源として活かす/むんじゅる大会/健康ウォーク大会/民具づくりや方言の名人　等）
○粟国らしさ活かした商品づくりや誘客活動、情報等を発信する（麦、粟、もちきび等を使った特産品開発、ＩＴを活用した情報発信の充実、村花のテッポウユリを植える）
○近くて遠い粟国の交通改善

＜村民アンケート調査結果より＞
○島で最も誇れるもの（1 つ選択）では、「島の自然」（38.4%）で最も多く、「ヤガン折目等の文化・伝統」（20.8%）と「島の自然や文化・伝統」を誇りとする意見が多い
□友人・知人に案内する場所や理由をみると、「マハナ・筆ん崎」、「長浜ビーチ」、「洞寺」、「海や海岸沿い」が多く、「自然がつくりだす風景がきれい」等が主な理由となっている
□観光振興に寄与する活動に参加・協力できることは、「花いっぱい運動等の美化活動・清掃活動」（56.8%）が最も多く、「地域を知る活動」（34.3%）、「観光資源の保全・維持活動への協力」（31.2%）となっている
□粟国観光をより魅力あるものとして磨いていくべきと感じる点等では「村民のホスピタリティ・意識等の向上、村民皆の協力が必要」等の意見も多い